最高学部（大学部）

2025 年度最高学部前期課程修了研究旅行について

小田幸子　咲花昭嗣

最高学部の前期課程修了研究旅行は，2012 年度から始まったプログラムである．2011 年度まで 2 年課程（女子のみ）2 年が「卒業旅行」として関西への研究旅行を行ってきたが，前期課程修了前に両課程の 2 年生全員が研究旅行を行うこととし，目的地は歴史的経緯を踏まえ関西（女子）と九州（男子）の 2 か所とした．2023 年度からは目的地を学生が選択できるかたちとした．中・高等部の共学化に伴い最高学部でもカリキュラム等の見直しを行った結果，前期課程修了研究旅行は 2026 年度から全学年対象の選択プログラムとなることから，2 年生全員が参加する旅行は 2025 年度で終了となった．

1. はじめに

前期課程修了研究旅行（以下，研究旅行）の前身となった女子部の「卒業旅行」や 2012 年度から新たに九州を目的地とした経緯については，『自由学園年報　第 28 号』「2024 年度最高学部前期課程修了研究旅行について」に詳述したため割愛する．

2025 年度も，関西は「主に日本の歴史・文化・美術工芸」，九州は「主に近代日本の社会（産業・戦争・公害）・宗教」に焦点を当てて学ぶことを目的とし，2025 年 12 月 5 日（火）～8 日（金）の日程で実施した．

2. 九州

参加者：学生 8 人（女子 4，男子 4），引率 1 人（咲花）

1 日目：羽田空港～鹿児島空港～知覧地区（特攻平和会館）～鹿児島市内　レム鹿児島泊

2 日目：水俣病歴史考証館・水俣市内～長崎　エスペリアホテル長崎泊

3 日目：長崎（大浦天主堂，キリシタン博物館）～軍艦島周遊ツアー

4 日目：長崎（平和公園，爆心地，原爆資料館，市内散策）～長崎空港～羽田空港

この旅行のテーマは，「人間の生と死から環境・歴史・社会を考える」．近代化を追求してきた日本の，とりわけ公害や戦争によって市民の生活がどのように変わっていったのか．宗教弾圧の中にあって受け継がれた信仰を通して人間が生きることの意味は何か．参加した学生それぞれが，いくつもの問いと向き合う旅行になった．



図 2 - 1　知覧特攻平和会館



図 2 - 2　水俣病歴史考証館で卒業生の職員から解説

1年次の必修科目「環境と経済・社会」では，経済学と環境工学の視点から水俣をケーススタディとして，石牟礼道子『苦海浄土』を課題として取り上げている．また，2年次必修

科目「自由学原論」などいくつかの科目でも，自由学園卒業生の戦争体験や隠れキリシタンを取り上げ，人間の尊厳とこれまでの歴史に触れている．それらの学びのフィールドワークとしてもこの旅行の意義は大きい．



図２－３　水俣の海の傍でお話を伺う



図２－４　大浦天主堂

今年度もそれぞれの訪問先で貴重な学びを得られた．また，今年度はジャンボタクシー1台に乗り切れる人数だったことから，交通費の軽減が可能になった．



図２－５　長崎平和公園　平和記念像の前で黙祷

3. 関西

参加者：学生６人（女子２．男子４），引率２人（小田・高橋）

参加者は，「自由学原論」「生活芸術基礎」などの講義とも連関をもちながら，事前に見学先についての調べ学習を行って共有し，結果はしおりにまとめて研究旅行に持参した．また，當麻寺と関りの深い折口信夫『死者の書』を事前に読むことを推奨した．

１日目：東京～京都～奈良（山の辺の道，飛鳥）

東京駅に集合し，新幹線，近鉄を乗り継ぎ，橿原神宮駅からは貸切ジャンボタクシーを利用して桧原神社に向かった．山の辺の道は日本最古の道として，現在奈良市内から桜井市までが整備されている．そのうち桧原神社から大神神社までの約 1.4 キロメートルの三輪山山麓を歩くこととした．途中，狭井神社にも参拝し，御神水を味わった．新年を迎える準備が進められている大神神社は拝殿のみがあり，ご神体の三輪山を拝礼する古い形式が残っていることなども確認することができた．その後，奈良文化財研究所飛鳥資料館で飛鳥地方の歴史，これまでの発掘による研究成果などを学び，石舞台古墳，飛鳥寺を訪れたのち，宿泊先の飛鳥寺研修会館修得坊に向かった．夕食には飛鳥地方の郷土料理である飛鳥鍋をいただき，牛乳をベースとした鍋からも土地の歴史を知ることができた．



図 3-1 石舞台古墳



図 3-2 當麻寺 曼荼羅堂前



図 3-3　法隆寺

2 日目：奈良（甘樫丘～當麻寺～法隆寺～慈光院）

朝食後，研修会館の隣にある飛鳥坐（あすかにいます）神社を訪れ，第 87 代目宮司の飛鳥様よりお話を伺うことができた．その後，甘樫丘に上り風致地区条例により歴史的な景観を維持している明日香村と，橿原市方面の市街地の様子を比較したり，大和三山の実際の姿を見る事ができた．次に二上山の麓にある當麻寺に向い塔頭の1である中之坊に伺った．ここではご住職の松村様より中将姫と當麻曼荼羅について，折口信夫の『死者の書』と當麻寺についてなどのお話と，曼陀羅の絵解きを伺った．またご子息の副住職様に曼荼羅堂，金堂，国指定名勝・大和三名園のひとつである香藕園を丁寧にご案内いただいた．中之坊には以前は宿泊もさせていただいており，副住職様は「学園のお姉さん方が泊まっていたことをよく覚えています」と仰っていらした．今回参加した 2 人の女子学生は卒業生の子女であることから「母も泊めていただきました」と言って，この研究旅行が長らく続けられてきたご縁も感じることができた．次に法隆寺を訪れ，ボランティアガイドの案内で境内を回った．最後に慈光院に伺って，国指定名勝・大和三名園のひとつである庭園を副住職様のお話を伺いながら拝見し，お抹茶をいただいた．慈光院の立地的な特徴について，またおもてなしと茶道についての貴重なお話を伺うことができた．この日は奈良市内のホテルアジール奈良に宿泊した．

3 日目：奈良（東大寺～興福寺～古梅園）～京都（平等院）

3 日目はまず東大寺法華堂にてこのお堂の本尊である不空検索観音像をはじめとする仏像群を拝観し，続いて興福寺国宝館でも多くの優れた仏教美術に触れることができた．次に，約 400 年以上続く製墨業者である古梅園にて墨作りの工程を見学した．植物油を燃やして煤を集める採煙，膠と合わせて墨を練ってからの成型，湿度の違う木灰に墨を埋め少しずつ乾燥させる工程を一つひとつ職人たちが手作業で行う現場を見せていただきその細やかさに驚いた．さらに 100 年先まで見据えて天然の材料を確保していることも伺った．いろいろ試行しても結局のところは天然の材料に勝るものがないというお話から，ものつくりは技術の伝承だけではなくきちんとした材料がなければ続いていかないのだと知った．古梅園見学のあとは，京都府に入り平等院の内陣と鳳翔館（ミュージアム）を見学した．国内外から多くの観光客が訪れており，奈良の静かな雰囲気と

の違いを感じた. この日は, 京都市内の清水寺に近い東山荘に宿泊した. 学生たちは, 清水寺の夜間ライトアップも楽しんだ.

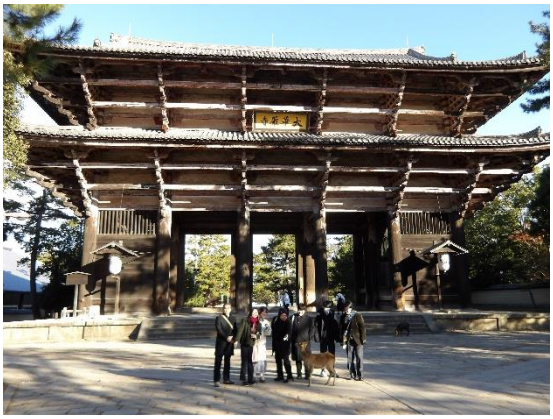


図 3-4　東大寺 南大門前

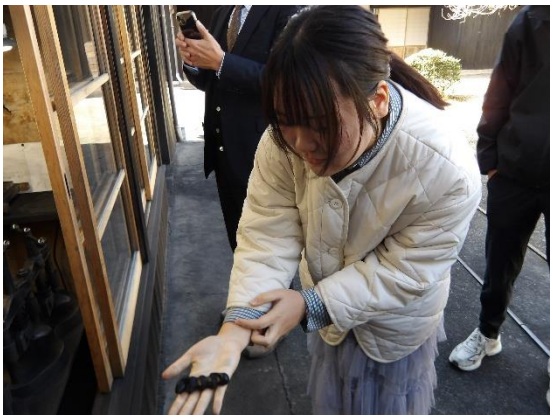


図 3-5　古梅園でにぎり墨を体験する

4 日目:京都(大徳寺～市内自由見学)～東京

午前中に大徳寺真珠庵(通常非公開)を僧侶の方のご案内で拝観させていただいた. 真珠庵は一休宗純を開祖とする塔頭であり, 当時から現代までの襖絵やお茶室について様々のお話を伺うことができた. その後は, 京都市内を自由に見学し, 16 時 40 分に京都駅に集合, 関西在住の卒業生や旧保護者の方々のお見送りを受けて, 新幹線で帰京した.

振り返りレポートに書かれた学生の感想を以下に紹介する.

・今回の研究旅行を通し, 神社やお寺に沢山行ったことで, 見る目が変わったと共に, 当時の職人の技, 技術力の高さに触れることもできた. 不思議な点は, 当時の人々の工夫, 使いやすさ, なじみやすさという「感覚」が科学的に証明できるという点である. また, 自由学原論の講義との関連で言えば, 今私達が住んでいる日本の国の始まりや外国とのつながりなどにも良い面と悪い面の両方が存在する. この二面性があることを認識し物事を正しく見ていくために, 本物を見ること, 事実として見ることがとても重要だと思った. この旅行の目的もそこにあるのではないかと思った.

・研究旅行全体を通して, 現代では書籍やネットの情報を簡単に得られることからなんでも知った気になりがちであるが, 現場で本物を見ることの大切さに気付くことができた. 日本は中国や欧米などから技術を学び, その文化を模範として発展してきた歴史がある. 今回の旅行先では古くから日本で大切にされてきた文化を体感し, 日本独自の職人業や技術を見ることができたし, 日本人の文化・伝統を受け継ぐ精神の熱量と奥深さがよくわかったと思う.

最後に, この九州・関西への研究旅行を実施するにあたり, 多くの方にお力添えをいただいたことに感謝申し上げる.